

# 12月議会 (11/29~12/17) 市議会報告



市議会議員  
湯浅美和子

## 代表質問から

### 第二次五か年計画

見直しには、  
もっと丁寧な説明を！

平成18年度決算はついに赤字、そして実質公債費比率が24.8%と、借金をするに国から制限を受ける25%ぎりぎり。千葉市の財政状況はかなり深刻です。20年度の市債発行は19年度予算649億円から350億円に縮小されます。

そこで、避けては通れないのが第二次五か年計画の見直しです。その総額は18年度策定時の4058億円から2821億円(69.5%)へ。たった2年でこれだけの大幅な見直しを強いられるとは、先見性のなさを露呈しています。

ここで大切なのが、不要不急な事業を減らしたり、先送りするのはいいのですが、市民生活に直結した予算が確保されているか、ということ。案の定、千葉駅西口再開発や蘇我臨海開発などの大型事業の基盤整備が進められる一方で、学校図書整備、身近な公園の整備、里山の保全などは先送り。

モノレールの延伸事業は、開業を2年先延ばしするものの、計画期間中の着工を目指しています。本場にこれだけのカー市はパブリックコメントを行いました。市民には個々の計画事業費の削減額は示されていません。これでは判断するのは難しい。もっと丁寧な説明があつてしかるべきです。

## 一般質問から

### 公園の遊具は安全？

公園で遊具使用中の事故が相次ぎ、国では安全基準についての議論が始まっています。おりしも美浜区にお住まいの方から、区内73ヶ所の公園・緑地の遊具の安全性を調査した詳細な報告書がみはま事務所へ届けられました。思っていた以上に錆・腐食が進んだものが多く、早急な対応が求められます。植栽管理等の予算に比べ、遊具の点検・修理などの予算は圧倒的に少なく、



早めの手入れで安全・長持ち

また年々減少してきます。遊具の安全は子どもたちの命にかかわるもの。「何か起きたら動く」のではなく、速やかな対応が必要です。また今後は統一的なチェックシートに基づいた日常点検を行う、とのこと。遊具点検にボランティアが協力する自治体もあり、千葉市でも試みるよう求めました。

## IT社会の弊害から 子どもたちを守る

千葉市の平成18年度調査では、小学校高学年で約8割、中学生の約9割が、インターネットを利用し、また小学校高学年の約1割、中学生の約2割が、掲示板などの言葉による暴力、あるいは金銭トラブルなどマイナス体験があるとのこと。

進化するIT社会を生きていくには、ITを認識する能力、使いこなす技術、そして利用する主体としての人格形成が重要です。また、しっかりと子どもたちを守る環境を作り上げる、と大人たちが宣言することも大切です。

総務省は、未成年者が携帯電話の有害サイトを閲覧できないようにするフィルタリングサービスに契約者が原則加入することを求め、携帯各社に通知、子どもたちを守る動きがようやく見えしてきました。

しかし子どもたちのIT知識は大人たちの数歩先を行っていること、社会の対応はまったく遅れをとっていることを認識すべきです。その上で、保護者への働きかけもしっかりと行うことを求めました。

# 生活みづめれば 政治

**市政相談日**  
毎週木曜日  
10:30~16:00

お気軽にご相談下さい。

県の建設工事の  
落札率(単純平均)の状況

年度	件数	落札率
2002年度	4215	96%
2003年度	3929	96%
2004年度	3689	96%
2005年度	3737	95.8%
2006年度	3765	95%

## 県議会報告 目指せ！脱談合

建設工事の落札率95%(単純平均)  
県議会議員・川本幸立

日本の公共事業の入札では談合が蔓延していると言われます。談合は、税金を「最小の経費で最大の効果」が得られるように使うべしとする地方自治法(第2条)に反します。日本弁護士連合会の入札制度改革に関する調査報告書では「落札率(予定価格に対する落札価格の割合)は談合しているかどうかを判断するための主な基準になる」とされ、全国市民オンブズマン連絡会議では、落札率95%以上を「談合の疑いが極めて高い」、90%以上を「談合の疑いがある」としています。

ところで、06年度決算の県の建設工事3765件の単純平均の落札率は95%です。長野県では昨年度の予定金額982億円に対して落札金額775億円で落札率は80.4%でした。

千葉県で長野県ベースの落札率を実現すれば少なくとも百数十億円節約できたこととなります。こうした不透明な入札実態については私は決算委員会で各部門毎に質しましたが合理的な説明はありませんでした。財政危機にあるからこそ、条件付一般競争入札の導入を柱とする「脱・談合」改革が不可欠です。

# みはまだより

## 幸町・新港地区から



築40年 老朽化が進んでいる

幸町2丁目の地域の問題について、2丁目連協会長の長岡さんにお話を伺いました。今もっとも深刻な課題は学校の統廃合。現在幸町地区の2中学校・4小学校を将来、1中学校、2小学校にする千葉市の計画で

す。幸町1丁目の小・中学校はマンション建設ラッシュの千葉港地区を含め中央区から子ども達も通っているため、児童生徒があふれ、統廃合の対象にはなりにくい。一方、2丁目にある3つの小学校をひとつにするのも困難です。説明会に続き地元協議会も作られる予定でこれから議論が始まります。長岡さんは、こどものためというなら区を越える通学の現状を見直さないと、コミュニティの形成という観点からも問題だと語っていました。

道路に関しては、目の前に見える「みはまニューポートリゾート」に直接行く道がなく、せめて人と自転車が利用できる道を作ってほしいと要望しています。また、幸町と高洲の間の13号橋には歩道を取り付ける方向で市・県警と話が進んでいるそうです。

幸町団地建設と同時に作られた老人福祉センターは1階に子どもルームもあります。耐震の問題などもあり、1月半ばまで市民意見が求められていた次期5か年計画見直し案の中で、移転改築が示され、地域からの要望に答える形となりました。(磯辺・岩橋百合)

## 美浜区が抱える 大きな 大きな 問題 学校適正配置

# 学校が半分になる!?

平成16年に公表された第1次学校適正配置の取り組みから3年。この間、保護者や地域の方の話し合いが持たれ、「中学校区にこだわらない近隣校との統合、通学路の安全性、地域コミュニティとの整合」などの課題が明らかにされました。そして地域性に考慮した新たな適正配置のあり方の検討が行われ、平成19年10月、第2次適正配置の方針が出されました。

現在この方針に従い、美浜区全体を真砂・磯辺・幸町・高洲高浜・稲毛海岸高洲の5つの地域に分けて、適正配置の話し合いが進みつつあります。(打瀬地区は、すべて適正規模の児童生徒が通っており、今回の適正配置の対象に含まれない)

### ■適正配置って?

生徒児童、教員間で多様な人間関係を育み、選択教科など多様な教育を展開できる学校規模を目指すこととされ、具体的には、小学校・中学校とも1校あたり12学級以上24学級以下とされています。(6年間クラス替えなし、の学校もあるのです)

### ■そして美浜区……

上記5地区は、複数の小規模校が集中する地域として適正配置の対象となり、各地区に2つある中学校を一つに、また小学校もほぼ半分にする方向性が示されました。

### ■これからの話し合いを有意義に!

今後地元の代表の方が参加する地元協議会で、概ね2年をかけ話し合われます。参加する代表の方たちも大変大きな責任を感じておられるようです。教育委員会の示す方向性はさておき、この話し合いが、学校を拠点とした地域コミュニティのさらなる活性化に発展するよう応援したいですね。(湯浅美和子)